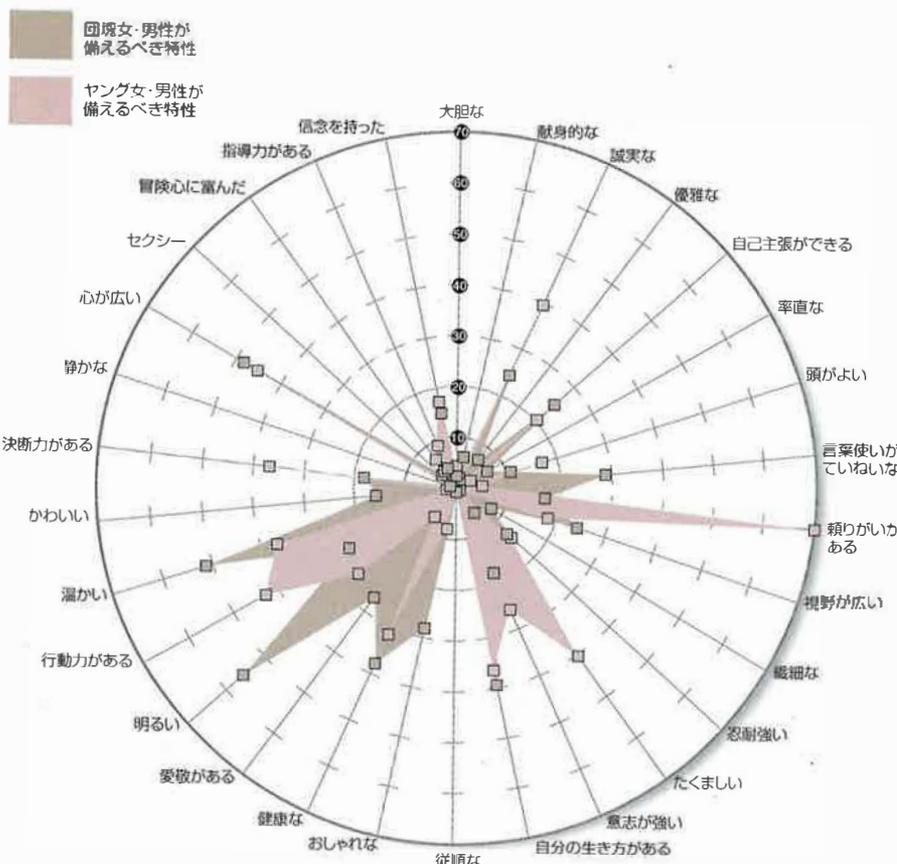


●アンケートより 男女それぞれが備えるべき特性は？ 団塊女性 vs YOUNG女性



男性観

団塊女性が選んだ男性が備えるべき特性のベスト5は「誠実な」「視野が広い」「行動力がある」「自分の生き方がある」「決断力がある」の順。一方ヤングは「頼りがいがある」「心が広い」「行動力がある」「たくましい」「誠実な」の順で、「頼りがいがある」は実に70.1%のヤング女性が選択した。団塊女性の方がヤングよりもはるかに多く選択した項目は、「視野が広い」「指導力がある」「誠実な」「自己主張ができる」。逆にヤングがはるかに多く選択した項目は「たくましい」「温かい」「意志が強い」「明るい」。

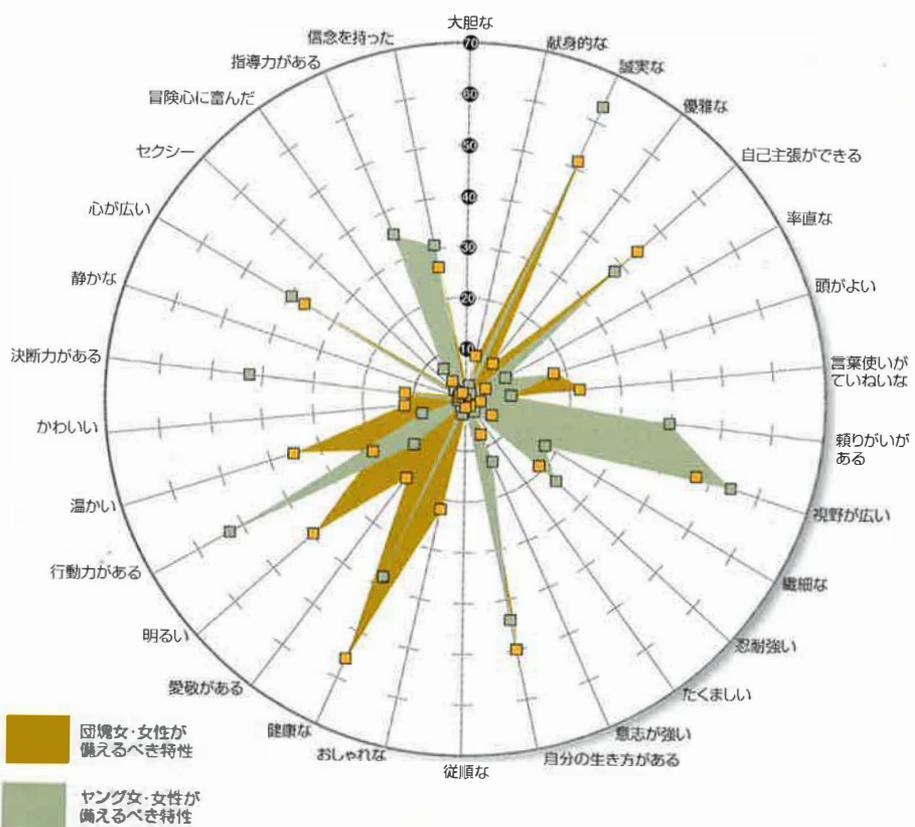
進化している？

退化している？

女性観

団塊女性が選んだ女性が備えるべき特性のベスト5は「健康な」「誠実な」「視野が広い」「自己主張ができる」「明るい」の順で、団塊の世代の女性は、性別とは関係なく誠実さと広い視野を求めている。一方ヤングは「明るい」「温かい」「心が広い」「自分の生き方がある」「健康な」の順で、ヤング女性は、性別に関係なく広い心が必要と考えている。団塊女性の方がヤングよりもはるかに多く選択した項目は、「誠実な」「視野が広い」「自己主張ができる」「指導力がある」「健康な」。逆にヤングがはるかに多く選択した項目は「温かい」「明るい」「心が広い」。

団塊世代の女性たちは、いま、どんな男性観、女性観を持っていて、若い女性たちとどう違うのだろうか。編集部では、昨年11月から12月にかけて静岡県内の100名ほどの団塊女性にお願いして、調査を実施した。内容は「たくましい」「かわいい」など30の項目の中から、男女それぞれが備えるべきだと思う特性を6つまで選択していただくというものだ。その結果を、15年度発表された若者たち(静岡県生活文化部男女共同参画室 中学2年生・大学2年生 1207名 2003年11~12月実施)を対象とした同じ項目の調査の女性たちと比較してみた。大きな差がある項目がいくつかあるが、それは単なる生きてきた長さから出てきたものだろうか、それとも？



社長の定年

団塊世代の 経営者の決断に見る 企業の社会的責任



静岡文化芸術大学文化政策学部・
同大学院教授 坂本光司(さかもとこうじ)

浜松大学教授、福井県立大学教授等を経て、
2004年4月より現職。国・県・市町村の公
職多数、専門は地域経済論・中小企業論。著
書『この会社はなぜ快進撃が続くのか』他多
数。中小企業研究奨励賞本賞受賞

先日久方ぶりに、団塊の世代社長であ
るM氏にお会いした。M氏は筆者を見つ
けるや、にこやかに駆け寄って、次のよう
な話をしてくれた。

「昨年末、25年間何とか無事に務めさせ
てもらった社長職から退き、親戚縁者で
はありませんが、これまで長きに渡って献
身的に自分を補佐し続けてくれたD氏
にバトンタッチしました。脱サラをし、家
族や社員を路頭に迷わせまいと、この間、
一心不乱で働いてきましたが、もうこれか
らは、あすの受注確保のことも、資金繰
りのことも、コストダウンのことも何も気

にせず、これまでやりたくてもじつくり
出来なかったこと、例えば、絵を描いたり、
旅行に出かけたり、人生を大いに楽しむ
つもりです。

前から社長職は「60歳定年」と決めて
いたのですが、頑張る優秀な後継者にも
恵まれ、3年前倒しすることになりました。
身を引いて、遠くから会社を眺めている
と、実に様々なものが見えてきて、いろい
ろ言いたいことが出てくるのですが、若い
人たちがせつかく任され、ヤル気をだして
頑張っているの、一切黙っています。けれ
ど、社長を定年することがこんなに楽し
いとは思わなかった」。概略このような内
容であった。

こうした定年を定めることにより、自
らを律し、かつ定年後を楽しもうと考え
る社長は、総じて団塊の世代の社長に多
く見られる。筆者が親しくお付き合いし
ている浜松市のK社長、掛川市のK社長、
吉田町のT社長、静岡市のS社長、静岡
市のI社長、そして富士宮市のH社長な
どもその1人である。これらの社長は、単
なる思い付きではなく、既に10年も20年
も前から自分の定年を定め、全社員の前
で公言し、後継者の発掘・育成や定年後
の自分の楽しみ、幸せのために、常に組織
の先頭に立って社長業を実践している。

こうした社長たちの人生観、社長観に
は、我々は大いに学ぶべきものがある。つ
まり、自らが裸一貫で、全財産を投入し
起業した、資本と経営の不完全分離の、
またそこにこそ強さの根拠がある中小企
業の社長にとって、自らの定年を自らが
課すというのは想像を絶する英断だか

らだ。

もとより、社長の定年制が是か否かは
一概には論じられない。おそらく業種、業
態、存立基盤、最も重要なのは、その社長
のリーダーシップの如何などにより異な
るものである。加えていえば、優れた後
継者にタイミングよくバトンタッチできる
かどうか、といった問題もあろう。しかし
ながら、経済や競争の国際化、スピード化
などが著しく進展し、企業の主体的変
身がますます強く求められている今日、
その最大のパワーが、経営者の若さ、起業
家精神の如何にあることも否めない事実
である。

筆者の調査によると、県内の中小企業
の社長の年齢構成は、30歳代が約1%、
40歳代が約25%、50歳代が約35%、そし
て60歳代が約32%となっている。その意
味では今後中小企業の世代交代は、急速
に進むのであろう。

社長の定年は60歳がいいのか、65歳が
いいのか、はたまた70歳がいいのかは、実は
大した問題ではない。重要なのは、絶大
な権限を持った社長が、自らの責任と限
界を十分心得てマネジメントを実践して
いるか否かという点である。もっとはつき
りいえば、企業の社会的責任である、雇
用責任、市場創造責任、業績責任、幸せ
提案責任を果たしているか否かである。
これら社会的責任が、不十分な社長職の
長期化は、会社や社会にとって、労害を
もたらすことになる。その意味では多数
派である団塊の世代の経営者の、この数
年間の言動如何が、静岡県企業の明日を
決するといっても過言ではない。

女性のための相談・

あざれあ相談事業の12年



あざれあ相談事業の目的は、夫との関係、子どもや家族をめぐり、職場の中などで、女性であるがゆえに求められてきた「従来の役割」に生きにくさを感じている女性に対し、自分の気持ちに正直に生きていく

静岡県男女共同参画センターあざれあでは、女性がひとりの人間として生きていくうえで抱える様々な悩みや問題についての総合的な相談窓口として「あざれあ相談室」を開設しています。

平成5年の開館と同時に誕生した相談室は、今年12年目を迎えました。相談件数は年々増加し、現在は開設当初の4倍近くおよそ3,000件の相談が寄せられ、その内容も「夫との関係」「子育て」「生き方」「職場」など様々です。

のだという気づきを促し、自信を取り戻し、生き方を自己決定していきけるよう支援することにあります。

日々の相談の中から見えてくる様々なニーズは、相談者個人の問題としてだけでなく、多くの女性に共通の問題としてその背景にある社会問題を浮かび上がらせています。

あざれあでは、浮かび上がった課題や問題を、「相談室セミナー」として展開するとともに、「基礎講座」や「市町村相談担当者セミナー」などを始めとする他の多くの事業企画にも反映させています。

男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の形成を進めていくうえで、相談事業は大きな意義をもっています。

あざれあ相談室



電話相談

東部

☎055-925-7879

下田

☎0558-23-7879

中部

☎054-272-7879

西部

☎053-456-7879

※電話は全てあざれあに転送されます

専門相談(電話相談での予約が必要です)

弁護士相談 月2回火曜日 13時~16時

離婚、相続などに関する具体的な相談に対し、女性の弁護士がお応えします。

精神科医相談 隔月1回金曜日 13時~16時

心身の不調、人間関係などのお悩みを女性の精神科医が聞かせていただきます。

DV相談 毎週月・木曜日 10時~15時

夫や恋人などからの暴力が原因でこれからの生き方について考え直したい方に御利用いただけます。

まずは、電話相談におかけください。通話中でつながらないこともあります。あきらめないで時間をおいて再度おかけ直してください。

静岡メンズクラブ “くるま座”が 発足



近年の急激な社会経済情勢の変化の中で、様々な問題を抱えて悩んでいる男性達。離婚の増加、リストラ、過労死、経済苦による自殺等々……そんな「男たち」の悩みを打ち明ける場を作ろうと、「あざれあ男性相談支援者セミナー」受講者の有志が発起人となって、静岡メンズクラブ「くるま座」が発足しました。気軽に集い、生き方探しをしようというのがこの会の主旨。

1月13日の発足会には、県内在住の12名が参加、大阪の

メンズセンター運営委員長の中村彰さんもアドバイザーとして遠路駆けつけてくれました。今後、あざれあを会場に、毎月第2木曜日19時から20時50分まで、定例会を開催していくとのこと。静岡メンズクラブ「くるま座」は誰でも参加できます。何も話さなくても聞くだけでもOK！

あなたも参加してみませんか！

自分探し・再発見

よるいを脱いで
生き方探し

悩み・苦しみを出し合おう



定員144名の「大会議室」ができました。



あざれあに「100人規模の参加者に対応できる会議室」の要望が、利用者から多く寄せられておりました。

この度、御要望に因應で、2階の展示室を改修し、定員144名の「大

会議室」としても使用していただけるようになりました。

プロジェクターやプラズマテレビなど最新のOA機器を完備しておりますので、会議、講演会等にぜひ御利用ください。

若い人の就職について当事者たちの座談会と、県内企業の実態をとてもおもしろく 拝読しました。主に、性別による雇用や勤務実態の現状がある程度わかりました。率直な感想として、現代の女性の学生や社会人は意識が20年前、10年前とはかなり変容しているにもかかわらず、社会全体の意識がかなり遅れているという印象です。男性並みに働き続けたい、そして、制度の確立は徐々にできてはいるけれど、活用していこうとすると、障害が多すぎる。そこで、育児の段階で辞職に追い込まれる、という形は自分のころとあまり変わらないように見受けられます。私の職場でも、女性が働き続けることは至難の業に見受けられます。今回の県内企業の様子を読むと、大都市より遅れているのかもしれないと思いました（これは根拠のない単なる感想ですが）。制度が制度として、多くの人が利用できるようになるには、国全体としての法整備と、国民の意識改革をもっと進めていかなければならないのでしょうか。長期的観点からの労働力不足や少子化の歯止めのために、さらなる男女共同参画推進事業が草の根からと、企業側への働きかけとの両輪が必要と感じました。そのために、自治体の参画センターの意義がますます問われることになること、しみじみ感じました。今後の活発な活動を望みます。（静岡市・アキ）

「座談会」では男女差別に関して就活をしてみないと分からないことがあることや男女雇用機会均等法が施行されていても、男女差別がかなり残っている現状を知ることができました。インターンシップで行った会社で、女性の営業職がないことなど男女差別があることを社員から聞いてきましたが、女性は採らないと断言する会社もあることを知り覚悟しなければと思いました。まだ就活のスタートを切ったばかりで、やりたい仕事のことばかり考えてきましたが、制度もしっかり研究して会社を決めなければと思いました。また結婚や出産について考えたことがなかったで、自分の人生についてもしっかり考える必要を感じました。（中略）

就職活動はこれから本格的に始まりますが、結婚や出産をしても仕事を続ける意志があることを私は強調していきたいと思います。（静岡市・匿名希望 大学3年）

三重県の方からもお便りいただきました。

45号を読んで、
まず、住所を書こうとしたら「共同参画」あれ？
参画じゃないの？間違ってる//と思たのでか
よく考えたら、参画参画（さんかまか）かな？
と思いました。

本誌については、113人企業のお仕事載せていて
地元ではないので今いちよく分かりませんでしたが、
「シャコ株」さん、女性も大切にしてくる会社
なのだなと思いました。

いまどきのシューカツについては、今の女性は昔に
比べて、すごく恵まれていて 55才くらいです。
24時間戻かてくれよ保育所や、ものすごく吸収率の
良いおむつ、育児休業や産休、これらの中で
一番が「男の姓を手伝わせる」ってことですね。
でも、どけだけ取戻しても、男は男、女は女で、お互い
自分のできる事を大切にしながら、いったりあこまきこ
ほいほいと思いました！ とくめい希望

46号のご感想をお寄せください。

本号のハサミ込みハガキ、またはE-mail、FAXでも結構です。
抽選で美術館招待券などを差し上げます。

E-mail kouryuukaigi@ka.tnc.ne.jp



post card

or



mail

or



fax

FAX 054-251-5085

編集後記

編集スタッフ
河合 登代子（編集長）
川口 智子
原崎 小百合
伊藤 愛
榊原 利奈
高岡 基（アドバイザー）

取材を通して何人もの「人生の先輩方」とお話することができ、とても勉強になりました。

（伊藤愛）

大学生と一緒にテーブルを囲み、仲間として1年間。若返らせていただく事ができました。

（川口智子）

さまざまな世代の方と出会うことができ、学生生活では学べることのできない貴重な経験ができました。

（榊原利奈）

ジェンダーの用語やルールが未だに身につかず、…あるがまま、なすがままの私でした。

（原崎小百合）

いまだ発展途上の「男女共同参画」。その視点で世の中を見ると、何かが変わります。1年間ありがとうございました。

（河合登代子）



ねっとわあく vol.46

監修・発行／静岡県男女共同参画センター
発行／平成17年3月1日
企画・編集／静岡県男女共同参画センター交流会議
住所／〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1
TEL／054-250-8107 FAX／054-255-9266

